

未来ノート

-202Xの君へ-

卓球

平野美宇

最初のおねだり

一人でやりきる

悔しさをバネに

金メダルを取る

リュック背負い 東京・大阪へ

平野美宇(17)は2013年春、中学入学とともに、メダリストの卵を育てる「エリートアカデミー」に入った。山梨の親元を離れ、東京都北区にあるナショナルトレーニングセンターで寄宿生活を送る。中学生で1人暮らしは心

細いだろう。でも、平野はあっけらかんと言う。「全然、困らないし、寂しいなんて思わない」。幼いころから「1人でやりきる」という姿勢が染みついてい

長さ274センチ、幅152センチの台の上を時速10



2009年3月、試合に出場して母の真理子さん(右)からの助言を聞く平野(左)東京都北区の稲付中の入学式に出る平野(左)と真理子さん(右)真理子さん提供

0+の球が飛び交う卓球は「高速の将棋」とも呼ばれる。1人で瞬時に球の回転を見極めてラケットを振るので、判断力がとても大切な競技だ。母の真理子さん(48)は、食事や服装、読み聞かせる絵本など、どんなことでも「どっちが良いかな」と問いかけ、娘に決めさせる癖をつけた。

小学2年生の09年1月、憧れだった福原愛の記録を抜き、全日本選手権ジュニアの部(高校2年以下)に史上最年少で出場して初勝利。真理子さんは「小学校を卒業したら、この子は親元を離れるかもしれない。1人で生活できるように育てなければ」と感じた。小学3年生になると、平野は大阪の強豪・ミキハウ

る東京富士大に1人で電車を乗り継いで出かけるようになった。荷物も自分でリュックに詰めた。平野は「かばんを背負って高田馬場の商店街を1人で歩いて」と、周りの人から「えっ」という顔をされることもあった。最初は親がいない心細さもあったが、次第に「自分でやる」という姿勢が芽生えていった。大阪の用具メーカーの関係者からは、こんな助言ももらった。「卓球『は』すごいねではなく、卓球『も』すごいねと言われる選手になりなさい」。五輪で金メダルを取っても、現役引退後の人生の方が長い。卓球以外でも、素晴らしい人になってほしい。今でも大切にす言葉だ。

(前田大輔)

◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA(朝日新聞販売所)でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。